

TASAKI

田崎真珠株式会社

www.tasaki.co.jp

証券コード：7968

第53期報告書

平成21年11月1日～平成22年10月31日



TASAKI

株主の皆様には、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

また、平素より格別のご愛顧とご支援を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、平成22年10月31日をもちまして、第53期事業年度の決算を行いましたので、

ここに営業の概況並びに主要事項につきましてご報告申し上げます。

今後とも一層のご支援、ご練達を賜りますようお願い申し上げます。

平成23年1月

代表執行役社長 田島 寿一

営業の概況

当連結会計年度におけるわが国経済は、中国をはじめとするアジア経済の成長や政府による経済対策の効果に支えられ、一部業種においては企業収益の改善がみられるものの依然として雇用情勢は厳しい状態にあり、また、円高とアフレの影響が懸念されるなど、景気は先行き不安のまま推移いたしました。

宝飾業界におきましては、景気の不安定感からの個人消費の冷え込みと業界内の競争激化等により業績低迷が余儀なくされ、環境は厳しい状況下にありました。

このような状況のもと、当社グループは新CI導入をはじめとする新ブランド戦略を引き続き推進し、本年4月にフラッグシップ店舗である銀座本店のリニューアル・オープンを、また、10月に大阪に本町ガーデンシティ店をオープンし、販売拡大を進めております。

売上面におきましては、個人消費環境の引き続きの低迷、及び、それに伴う当社グループの既存ビジネスの想定以上の沈み込み等により売上高は減少いたしました。また、売上の落ち込みを補う効果が期待される新ブランド戦略については、銀座本店の店頭売上が前年を上回るなど着実に実績は出ているものの、既存ビジネスの落ち込みをカバーするには至りませんでした。一方、海外子会社においてもグローバルな景気後退の影響は避けられず、海外ビジネス再構築のため一部子会社を事業縮小したこともあり減少いたしました。

以上の結果、当連結会計年度における売上高は152億32百万円(前年同期比18.9%減)となりました。

利益面におきましては、生産体制の合理化と組織改革による原価率の改善、並びに、販売費及び一般管理費の削減に注力いたしましたが、売上の落ち込みの影響が大きく、営業損益は23億円の損失(前年同期は97百万円の利益)、経常損益は営業外費用に為替差損1億73百万円を計上したこと等により27億50百万円の損失(前年同期は3億70百万円の損失)となりました。

また、当期純損益は特別利益に固定資産売却益1億4百万円、特別損失に収益性の悪化等に伴う減損会計適用による減損損失2億70百万円を計上したこと等により、税効果会計を加味した結果、26億91百万円の損失(前年同期は74億5百万円の損失)となりました。

セグメント別の概況

小売事業

当連結会計年度の売上高は85億66百万円で、国内市場の個人消費低迷による売上不振が影響し前年同期と比べ29億89百万円(前年同期比25.9%)減少しました。営業損失は8百万円となりました。

卸売事業

当連結会計年度の売上高は66億66百万円で、海外ビジネス再構築のため一部子会社を事業縮小したこともあり前年同期と比べ5億61百万円(前年同期比7.8%)減少しました。営業損失は2億33百万円となりました。



TASAKI『本町ガーデンシティ店』オープン

2010年10月1日、4月にリニューアルオープンした銀座本店に引き続き、関西地区における新たなTASAKIのフラッグシップとして、「TASAKI本町ガーデンシティ店」がオープンいたしました。

本町ガーデンシティは、大阪の北と南をつなぐランドマークとして、メインストリートである御堂筋と本町通りが交差するエリアに位置し、日本初進出のラグジュアリーホテル「セントレジスホテル大阪」をはじめ、Shop4店舗とレストラン2店舗が出店。TASAKIはその1階、御堂筋を面する場所に位置します。

内装は銀座本店と同じく、真珠やダイヤモンドなど自然が生み出す素材そのものの美しさと、人の手を加えて完成される美しさの二つの美が織り成す妙を表現。二面性を持つデザインに仕上げることで、華やかな街並みの中に独特の存在感を築き上げます。店内には、THAKOON(タクーン・パニックガル)が手掛ける「TASAKI CollectionLine2010」、秋の新作ジュエリー、ハイジュエリー、ブライダル等、様々なシーンに合うジュエリーを豊富なラインナップで揃えています。

名 称	TASAKI 本町ガーデンシティ店
所 在 地	大阪市中央区本町3-6-4本町ガーデンシティ1階
電 話 番 号	06-4704-5862
オ ー プ ン 日	2010年10月1日



Salon de 25ans<25ans 定期購読者>限定 TASAKI Special Event

今年創刊30周年となるラグジュアリーマガジン「25ans(ヴァンサンカン)」の定期購読者限定TASAKIコラボレーションパーティを、神戸・東京2会場で開催しました。

今年創刊30周年となるラグジュアリーマガジン「25ans」の定期購読者限定のTASAKIコラボイベントパーティを神戸「KITANO CLUB sola」と東京「TASAKI銀座本店」の2会場で25ans定期購読者であるエレガントでゴージャスな方々をお招きし開催しました。

イベントの内容は、食事・トークショー(神戸は西村副編集長とスタイリスト伊藤美佐希さん・東京は西村副編集長とファッションジャーナリスト藤岡篤子さん)および新作2nd Seasonの展示&先行受注会で、2nd Seasonはエンドユーザーへの初お披露目でしたが、どちらの会場でも皆さんの反応は上々でした。

神 戸	着席ディナー・トークショー・展示&先行受注会
東 京	ライトビューフェ・トークショー・展示&先行受注会・ショップクルージング





韓国のLaunchイベント 「TASAKI launching event in Korea」

10月20日、今年夏に韓国のソウルにオープンした話題のスポット“The Banyan Three Club & Spa Seoul”に、韓国の有名女優、プレス、百貨店関係者、会社関係者など、合計200名余りのお客様をご招待し、「TASAKI launching event in Korea」を開催いたしました。

イベントでは、弊社社長の田島とThakoon氏による新生TASAKIのプレゼンテーションが行われ、TASAKIの持つブランドの潜在能力を十分ご理解いただけたと思います。

また、“Collection line”を中心としたジュエリーファッションショーを行い、“Collection line 2nd season”では、本能的な願望を官能的にかつ遊び心を持ち表現し、「ハイカジュアル」、「フォーマル」、「カクテルドレス」3種類のTASAKI商品のコーディネートをご提案いたしました。

マスコミ関係の方々、早速会場から、Twitterやブログで写真と共に「注目すべきブランド、TASAKI、真珠の概念が変わった・・・」と発信されており、ソウルでのこれからのTASAKIを強くアピールすることが出来たと感じております。

また同時に、これらの商品展開・広告展開でも大きなステップとなり、これまで以上に強いブランドを目指す我々にとって、適度な緊張感とともに未来に向かって前進する推進力を得ることが出来ました。



●主要な経営指標等の推移(連結)

	第 4 9 期 (平成18年10月期)	第 5 0 期 (平成19年10月期)	第 5 1 期 (平成20年10月期)	第 5 2 期 (平成21年10月期)	第 5 3 期 (平成22年10月期)
売上高	(百万円) 29,122	30,211	29,570	18,783	15,232
経常利益又は経常損失(△)	(百万円) 493	564	△3,902	△370	△2,750
当期純利益又は当期純損失(△)(百万円)	△1,482	△2,030	△16,257	△7,405	△2,691
1株当たり当期純利益又は当期純損失(△)	(円) △39.78	△55.07	△411.96	△42.07	△15.29
総資産	(百万円) 82,224	63,800	41,246	25,872	21,583
純資産	(百万円) 36,884	33,725	23,782	16,326	13,601
1株当たり純資産額	(円) 990.12	936.13	135.12	92.52	76.60
自己資本比率	(%) 44.9	52.9	57.7	62.9	62.5

基本的経営方針

当社グループは、宝飾品販売を通じ「最高の品質」と「最高のおもてなしの心」で「最高の顧客満足」を提供できますよう、日々研鑽を重ね、その努力を継続することにより、信頼に裏付けられた「タサキブランド」を確立し、維持していくことを経営の基本方針としております。そのための行動指針は以下の通りです。

- ①社会への貢献
社会のニーズと環境に調和した宝飾品を提供し、皆様の心に豊かさや潤いをお届けすることにより、生活、文化の向上に貢献するよう努めます。
- ②顧客満足の向上
品質を重視し、お客様の良きパートナーとして永く信頼され続ける企業を目指します。
- ③株主貢献・債権者保全
効率的経営による業績の成長性を維持することによって、企業価値の増大を図り、適正な配当その他株主様の期待に応える利益還元や債権者様に安心いただくことに努めます。
- ④従業員の尊重
従業員一人一人の特性や能力が発揮され、新たなことに積極的に挑戦出来る、自由で活き活きとした企業風土作りを目指します。また、それにより、従業員の啓発と豊かさの実現を図ります。
- ⑤信頼される経営
法令・規則や定款・社内規程を遵守し、正しい社内統治および適正な開示により、不正や隠蔽をなくし、公明正大で透明性の高い経営を構築し、広く社会の信頼と信用を得るよう努めます。

当社の対処すべき課題

- ①当社グループは、財務基盤を強化し業績回復を実現することを早急の目標課題と致します。
- ②ブランド価値刷新・向上の実現
当社グループは、ブランド価値刷新・向上を目的として、商品デザインの強化、広告宣伝の拡充、国内小売店舗のスクラップ&ビルド(新規出店、不採算店舗の統廃合等)を実現することを課題として取り組んで参ります。
- ③海外への事業展開
当社グループは、高い成長力が見込まれる中国を含むアジア市場において、販売体制の整備、大都市圏での積極的な展開を課題として取り組んでまいります。
- ④収益力の回復
当社グループは、現状の戦略に基づき、財務体質を維持し、資金の使途・運用の効率化を図りながら、収益力の回復を目指して参ります。
- ⑤合理化(コスト削減)の実施
当社グループは、早期の業績回復と、収益性の回復を実現するため、事業規模に見合った人員の適正化を図ります。また、これに伴い、会社組織の見直しやシステム・間接コストの整理・合理化を進めることを課題として取り組んで参ります。
- ⑥在庫のさらなる適正化
当社グループは、より一層、在庫内容・在庫金額の分析・検討を行い、売上規模にリンクさせるよう在庫の適正化を引き続き推進して参ります。
- ⑦内部統制・コンプライアンス
当社グループは、平成20年11月から内部統制制度を導入しておりますが、これに合わせ、社内における統制・順法を更に強化整備することを課題として取り組んで参ります。

●貸借対照表(連結) **CHECK.1** (単位:百万円)

科 目	当連結会計年度末 (平成22年10月31日現在)	前連結会計年度末 (平成21年10月31日現在)	科 目	当連結会計年度末 (平成22年10月31日現在)	前連結会計年度末 (平成21年10月31日現在)
資産の部			負債の部		
流動資産	15,323	19,901	流動負債	2,456	2,312
現金及び預金	3,642	5,635	支払手形及び買掛金	556	456
受取手形及び売掛金	748	1,862	一年内返済予定の長期借入金	529	368
棚卸資産	9,552	10,797	未払金	978	818
繰延税金資産	-	12	その他	392	669
その他	1,393	1,632	固定負債	5,524	7,234
貸倒引当金	△12	△39	長期借入金	2,384	4,050
固定資産	6,259	5,971	再評価に係る繰延税金負債	78	265
有形固定資産	3,565	3,135	退職給付引当金	2,950	2,844
無形固定資産	122	72	その他	110	73
投資その他の資産	2,571	2,763	負債合計	7,981	9,546
投資有価証券	54	58	純資産の部		
その他	2,595	2,795	株主資本	13,752	16,170
貸倒引当金	△78	△90	資本金	7,500	20,164
資産合計	21,583	25,872	資本剰余金	8,809	19,710
			利益剰余金	△1,765	△22,913
			自己株式	△791	△791
			評価・換算差額等	△270	113
			土地再評価差額金	105	378
			為替換算調整勘定	△375	△265
			新株予約権	120	42
			純資産合計	13,601	16,326
			負債及び純資産合計	21,583	25,872

●株主資本等変動計算書(連結) (平成21年11月1日から平成22年10月31日まで) (単位:百万円)

	株 主 資 本				株主資本 合計	評 価 ・ 換 算 差 額 等			新株予約権	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式		土地再評価 差額金	為替換算 調整勘定	評価・換算 差額等合計		
前期末残高	20,164	19,710	△22,913	△791	16,170	378	△265	113	42	16,326
当期変動額										
当期純損失(△)			△2,691		△2,691					△2,691
土地再評価差額金の取崩			273		273					273
自己株式の取得				△0	△0					△0
減資	△12,664	12,664			-					-
欠損填補		△23,566	23,566		-					-
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)					-	△273	△110	△383	78	△305
当期変動額合計	△12,664	△10,901	21,148	△0	△2,418	△273	△110	△383	78	△2,724
当期末残高	7,500	8,809	△1,765	△791	13,752	105	△375	△270	120	13,601

●損益計算書(連結) **CHECK.2** (単位:百万円)

科 目	当連結会計年度 (自平成21年11月1日 至平成22年10月31日)	前連結会計年度 (自平成20年11月1日 至平成21年10月31日)
売上高	15,232	18,783
売上原価	7,224	8,512
売上総利益	8,007	10,271
販売費及び一般管理費	10,308	10,174
営業利益又は営業損失(△)	△2,300	97
営業外収益	57	83
受取利息及び受取配当金	8	35
雑収入	25	42
その他	23	4
営業外費用	506	550
支払利息	200	311
為替差損	173	106
その他	133	132
経常損失(△)	△2,750	△370
特別利益	234	578
固定資産売却益	104	538
投資有価証券売却益	-	20
未払金戻入益	64	-
その他	65	19
特別損失	350	7,957
固定資産除売却損	28	346
投資有価証券評価損	-	4
減損損失	270	3,085
事業場閉鎖損失	-	4,171
為替換算調整勘定取崩額	49	-
その他	1	350
税金等調整前当期純損失(△)	△2,866	△7,749
法人税、住民税及び事業税	57	73
法人税等還付税額	△24	△17
法人税等調整額	△207	△399
当期純損失(△)	△2,691	△7,405

●配当金について

当社グループは、株主に対する利益還元を、経営の最重要課題のひとつとして位置づけており、業績に裏付けされた成果の配分と、内部留保とのバランスを考慮しつつ、安定した配当を実施することを心掛けていきたいと考えており、中間配当と期末配当の年2回の剰余金の配当を行うことを基本方針としております。

しかしながら、当期は大幅な当期純損失を計上することになり、誠に

●キャッシュ・フロー計算書(連結) **CHECK.3** (単位:百万円)

科 目	当連結会計年度 (自平成21年11月1日 至平成22年10月31日)	前連結会計年度 (自平成20年11月1日 至平成21年10月31日)
営業活動による キャッシュ・フロー	484	750
投資活動による キャッシュ・フロー	△952	2,770
財務活動による キャッシュ・フロー	△1,504	△5,375
現金及び現金同等物に 係る換算差額	△69	△39
現金及び現金同等物の 増減額(△は減少)	△2,042	△1,894
現金及び現金同等物の 期首残高	5,594	7,488
現金及び現金同等物の 期末残高	3,552	5,594

CHECK.1 貸借対照表の概要

総資産は、前連結会計年度末と比べ42億89百万円減少し215億83百万円となりました。これは、主に流動資産においては現金及び預金の減少19億93百万円、たな卸資産の減少12億52百万円、及び、受取手形及び売掛金の減少11億4百万円、固定資産においては有形固定資産の増加4億30百万円によるものであります。

負債は、前連結会計年度末と比べ15億65百万円減少し79億81百万円となりました。これは、主に有利子負債の減少15億4百万円、及び、未払費用の減少2億21百万円、支払手形及び買掛金の減少1億円によるものであります。

CHECK.2 損益計算書の概要

売上高は152億32百万円、営業損益は23億円の損失、経常損益は27億50百万円の損失となりました。また、当期純損益は特別利益に固定資産売却益1億4百万円、特別損失に収益性の悪化等に伴う減損会計適用による減損損失2億70百万円を計上したこと等により、税効果会計を加味した結果、26億91百万円の損失となりました。

CHECK.3 キャッシュ・フロー計算書の概要

営業活動によるキャッシュ・フローは、棚卸資産の減少等により、4億84百万円の増加となりました。投資活動によるキャッシュ・フローは、有形固定資産の取得による支出等により、9億52百万円の減少となりました。財務活動によるキャッシュ・フローは、長期借入金の返済による支出等により、15億4百万円の減少となりました。結果、現金及び現金同等物の期末残高は、前連結会計年度末に比べ20億42百万円減少し35億52百万円となりました。

遺憾ながら、当期末の配当を無配とさせていただきます。また、次期の配当につきましても、業績予想は当期純損失を見込んでおりますので、無配とさせていただきますこととなります。

当社グループは、早期復配を目指し、収益力の向上に取組んでまいりますので、引き続きご支援を賜りますようお願い申し上げます。

●会社の概要 (平成22年10月31日現在)

商号	田崎真珠株式会社	営業目的	真珠の養殖、加工、販売及び宝石、貴金属を用いた宝飾品の製造販売ほか
創業	1954年(昭和29年)1月10日	本社	〒650-8550 神戸市中央区港島中町6丁目3番地2 TEL.078-302-3321
会社設立	1959年(昭和34年)12月11日	インターネットホームページURL	http://www.tasaki.co.jp
資本金	7,500百万円		
従業員数	697名		
決算期	10月31日		

●役員・委員一覧 (平成23年1月28日現在)

取締役	田島 寿一	委員会委員	田島 寿一	執行役	田島 寿一
取締役	飯田 隆也	指名委員	Michael Kim (キム・マイケル)	代表執行役社長(CEO)	飯田 隆也
取締役(社外取締役)	鈴木 荘平		Jay Bu(ブー・ジェイ)	専務執行役(CFO)	山田 芳一
取締役(社外取締役)	Michael Kim(キム・マイケル)	報酬委員	鈴木 荘平	常務執行役	田崎 将大
取締役(社外取締役)	Jay Bu(ブー・ジェイ)		Michael Kim(キム・マイケル)	執行役	山中 延郎
取締役(社外取締役)	池田 大輔	監査委員	池田 大輔	執行役	有上 正博
取締役(社外取締役)	小川 崇享		鈴木 荘平	執行役	田崎 真也
取締役(社外取締役)	砂川 伸幸		池田 大輔	執行役	田崎 真也
			砂川 伸幸		

●ネットワーク (平成22年10月31日現在)

国内拠点

- 事業所2(神戸、東京都中央区)
- 生産工場1(神戸)
- 養殖場1(長崎)
- デザイン室1(東京都渋谷区)
- 店舗 直営店41(うちアウトレット店10)、百貨店コーナー16

関係会社

- 亜細亜田崎真珠股份有限公司 [設立:1995年3月24日]
- 田崎珠宝(上海)有限公司 [設立:1995年6月21日]
- Tasaki Korea Co., Ltd. [設立:2007年5月2日]
- MYANMAR TASAKI CO., LTD. [設立:2001年6月21日] 他

●株主優待 ~1,000株以上お持ちの株主様への特典~



株主ご優待割引券

- ①本券は、毎年4月30日および10月31日の株主様に下記のとおり発行します。
- ②商品代金(消費税額含む)より、10%割引させていただきます。
- ③本券は1回のお買物につき1枚ご使用いただけます。
- ④本券は、当社の直営店舗(裏面記載)において表示の有効期限内にご使用いただけます。
なお、本券は百貨店内当社店舗、アウトレット店、オンラインショップではご使用できません。
- ⑤本券は、次の場合にはご使用できません。(1)修理代、部品代へのお支払い (2)奉仕品、特別価格商品へのお支払い
- ⑥本券は、紛失されても再発行いたしません。
- ⑦他の割引きとの併用はできません。

●株式の状況 (平成22年10月31日現在)

■発行可能株式総数	430,000,000株
■発行済株式の種類及び株式数	
普通株式	37,805,664株
A種優先株式	35,000,000株
■当期株主数	10,848名(普通株式)

大株主の状況(普通株式)

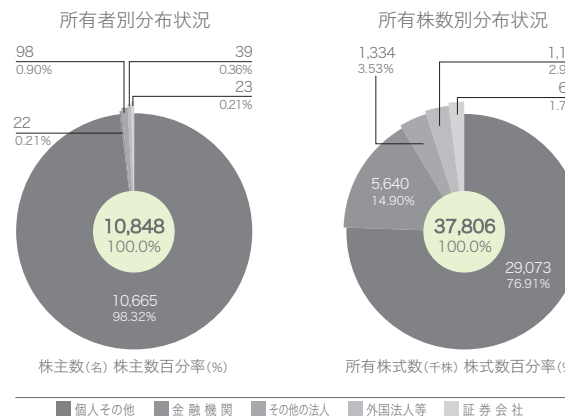
氏名又は名称	所有株数(株)	持株比率(%)
株式会社三井住友銀行	1,782,440	2.51
田崎 俊作	1,087,000	1.53
住友生命保険相互会社	927,000	1.30
日本証券金融株式会社	740,000	1.04
有限会社伊部	625,000	0.88
STATE STREET BANK AND TRUST COMPANY 505041	615,993	0.86
田崎真珠社員持株会	345,224	0.48
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口6)	252,000	0.35
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口3)	252,000	0.35

(注)当社は自己株式1,814,049株を保有しておりますが、上記の表には記載しておりません。

大株主の状況(A種優先株式)

氏名又は名称	所有株式数(株)	発行済A種優先株式総数に対する所有株式の割合(%)
Ocean0309 B.V.	35,000,000	100.00

(注)平成20年10月23日付で第三者割当によるA種優先株式35,000,000株を発行しております。



●株主メモ

事業年度	毎年11月1日から翌年10月31日まで
定時株主総会	毎年1月開催
基準日	定時株主総会 毎年10月31日 期末配当金 毎年10月31日 中間配当金 毎年4月30日 その他必要があるときは、あらかじめ公告して定めた日

【株式に関する住所変更等のお届出及びご照会について】
証券会社に口座を開設されている株主様は、住所変更等のお届出及びご照会は、口座のある証券会社宛にお願いいたします。証券会社に口座を開設されていない株主様は、下記の電話照会先にご連絡ください。

株主名簿管理人及び特別口座の口座管理機関	〒540-8639 大阪府中央区北浜4丁目5番33号 住友信託銀行株式会社
株主名簿管理人事務取扱場所	〒540-8639 大阪府中央区北浜4丁目5番33号 住友信託銀行株式会社 証券代行部

(郵便物送付先) 〒183-8701 東京都府中市日鋼町1番10 住友信託銀行株式会社 証券代行部

(電話照会先) ☎ 0120-176-417

(インターネットホームページURL) <http://www.sumitomotrust.co.jp/STA/retail/service/daiko/index.html>

【特別口座について】
株券電子化前に「ほふり」(株式会社証券保管振替機構)を利用されていなかった株主様には、株主名簿管理人である上記の住友信託銀行株式会社に口座(特別口座といひます。)を開いたしてあります。特別口座についてのご照会及び住所変更等のお届出は、上記の電話照会先をお願いいたします。

公告の方法 当社のホームページに掲載する
(<http://www.tasaki.co.jp/company/>)

上場証券取引所 東京証券取引所市場第一部